

紙・パルプ

【要約】

- 2003 年度の内需は、分野別で明暗は別れるものの、紙・板紙ともに全体的には微増で推移する見込み。2004 年度の内需は、景気回復を背景に、主力の印刷情報用紙、段ボール原紙を中心に、全体的には引続き微増となる見通し。
- 塗工印刷用紙を中心とした輸入紙増加の勢いに一服感が出てきており、国内生産も下げ止まる方向にある。国内在庫調整の進展により、板紙については 2003 年秋に値上げが実現したほか、印刷情報用紙価格は安定化に向かう見込み。
- 2003 年度の企業業績は、2002 年度下期の印刷情報用紙価格引き上げ効果がフルに寄与することや各社の合理化効果により、微増収増益の見込み。2004 年度も、2003 年秋の板紙価格値上げ効果や一定の合理化効果が見込まれ、引続き増益傾向で推移すると予想される。

【図表 4 - 1】 紙・板紙需給動向

【実数】

	摘要 (単位)	02fy (実績)	03fy (見込)	04fy (予想)	03 / 上 (実績)	03 / 下 (見込)	04 / 上 (予想)	04 / 下 (予想)
内需	紙・板紙 (千ト)	30,872	30,987	31,215	15,363	15,624	15,460	15,755
	紙・板紙 (千ト)	1,534	1,296	1,258	674	622	653	605
輸出	紙・板紙 (千ト)	1,599	1,848	1,889	913	935	930	959
	紙・板紙 (千ト)	30,776	30,467	30,554	15,168	15,299	15,177	15,377
輸入	紙・板紙 (千ト)							
	紙・板紙 (千ト)							
生産	紙・板紙 (千ト)							
	紙・板紙 (千ト)							

【増減率】

	摘要 (単位)	(対前年度比)			(対前年同期比)			
	摘要 (単位)	02fy (実績)	03fy (見込)	04fy (予想)	03 / 上 (実績)	03 / 下 (見込)	04 / 上 (予想)	04 / 下 (予想)
内需	紙・板紙 (%)	+ 1.1%	+ 0.4%	+ 0.7%	+ 0.6%	+ 0.1%	+ 0.6%	+ 0.8%
	紙・板紙 (%)	+ 14.1%	▲ 15.5%	▲ 2.9%	▲ 19.9%	▲ 10.2%	▲ 3.1%	▲ 2.7%
輸出	紙・板紙 (%)	+ 15.6%	+ 15.6%	+ 2.2%	+ 29.3%	+ 4.7%	+ 1.9%	+ 2.6%
	紙・板紙 (%)	+ 1.4%	▲ 1.0%	+ 0.3%	▲ 1.4%	▲ 0.6%	+ 0.1%	+ 0.5%
輸入	紙・板紙 (%)							
	紙・板紙 (%)							
生産	紙・板紙 (%)							
	紙・板紙 (%)							

(出所) 各種資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

産業の動き

1. 需給

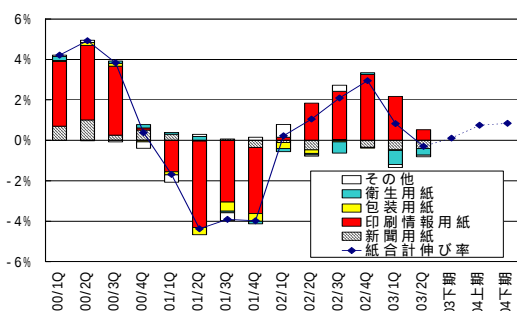
03～04年度にかけて引続き内需は微増の見込み

2003年度の紙の内需動向は、全体としては微増となる見込みであるが、分野別には明暗が分かれる状況となっている。まず、新聞用紙では、広告出稿や購買部数の減少からマイナス基調で推移しているほか、包装用紙でも需要業界の不振からマイナスに推移している。また印刷情報用紙についても、図書館等レンタル利用の増加を背景とする雑誌書籍販売の低迷など構造的要因から出版業界向けを中心に不振が続いている。一方、主力の塗工印刷用紙は、DVD・デジタルカメラ等AV機器のチラシ・カタログ向けや折込みチラシ用などで堅調に推移している。また、企業内小口印刷物の内製化によりPPC(普通紙複写機)用紙についても需要は堅調である(【図表4-2】)。

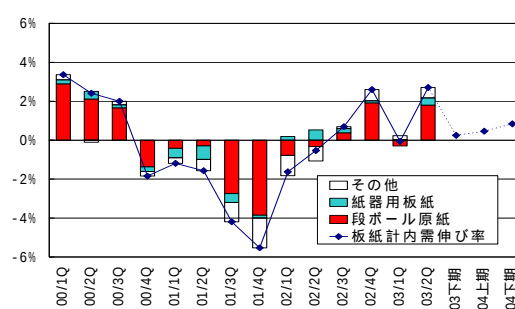
板紙の内需は、主力の段ボール原紙の最大需要分野である加工食品用が、年度当初増税や冷夏により不振であったが、残暑の影響と値上げ前の仮需が発生したことにより、プラスに転じた(【図表4-3・4-4】)。

2003年度下期については、最需要期である秋需も目立った盛り上がりなかったことから、ほぼ横這いで推移すると見込まれるが、通期では02年度比+0.4%の見込みである。2004年度は、景気の緩やかな回復が見込まれることから、主力の印刷情報用紙、段ボール原紙を牽引役に、紙・板紙計で03年度比+0.7%と引続き微増となる見通しである。

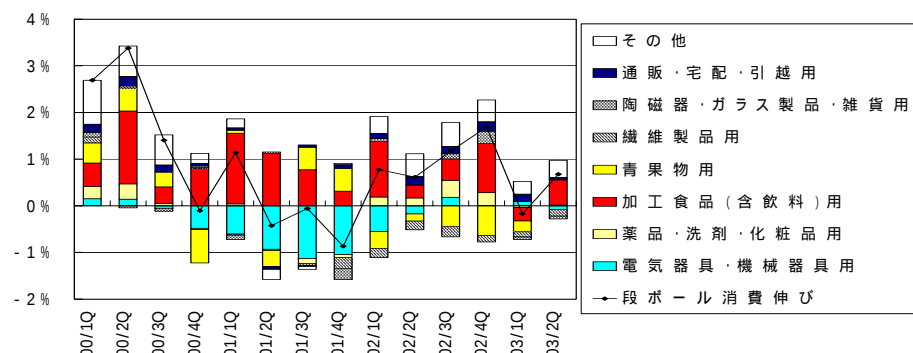
【図表4-2】紙内需伸び率製品別寄与度



【図表4-3】板紙内需伸び率製品別寄与度



【図表4-4】段ボール消費伸び率用途別寄与度



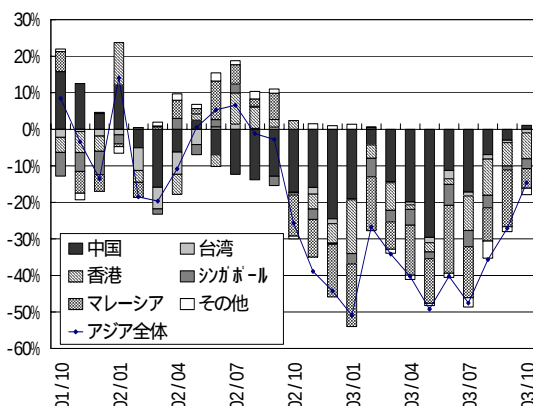
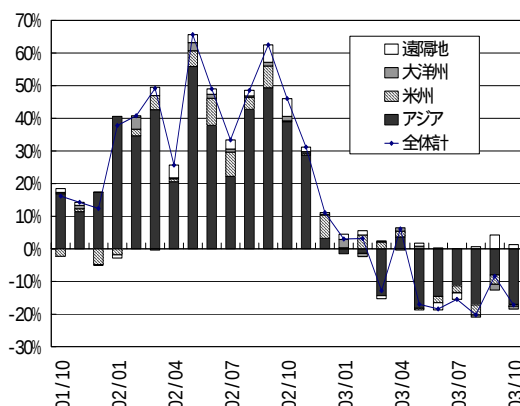
(出所)経済産業統計協会資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

輸出は引き続き減少傾向

2003年度の紙の輸出は、円高の影響や高い水準で推移した02年度の反動もあり低調に推移している(【図表4-5】)。また、板紙についても、主力の段ボール原紙が、古紙逼迫に起因する国内供給余力の低下や中国、東南アジア市場の自給率向上などにより、大幅な減少傾向が続いている(【図表4-6】)。2003年度の輸出は02年度比▲15.5%の大幅減が見込まれるが、2004年度も同様の傾向は続く予想される(03年度比▲2.9%の見込み)。

【図表4-5】紙輸出地域別伸び率寄与度図

【図表4-6】板紙輸出アジア国別伸び率寄与度図



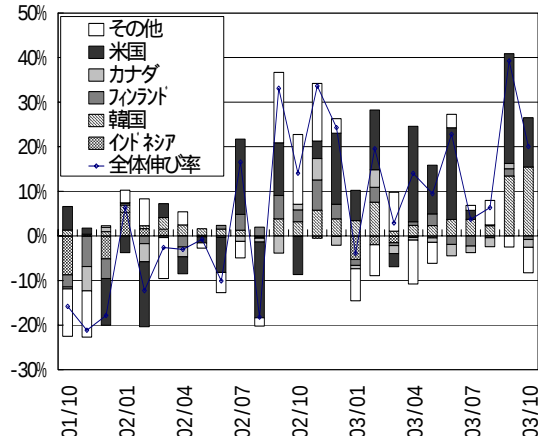
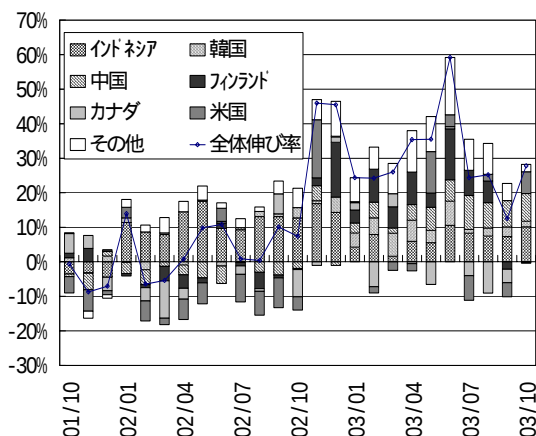
(出所) 日本紙類輸出組合統計資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

輸入紙は増加の勢いに一服感

紙の輸入は、2002年度下期から塗工印刷用紙を中心として増加が続いてきたが、2003年6月をピークに、欧州からの輸入品を中心に増加の勢いが弱まってきている。一方、インドネシア・中国・韓国などアジア諸国からの輸入は、生産能力の増強や円高でコスト競争力が強まっていることを背景に引き続き増加している。今後はパルプ価格の動向にもよるが、中国において新設備増設も予定されており、アジア市場の供給能力は増加する見通しから輸入増加の基調は変わらないものと予想される。

【図表4-7】紙輸入主要国別伸び率寄与度図

【図表4-8】板紙輸入主要国別伸び率寄与度図



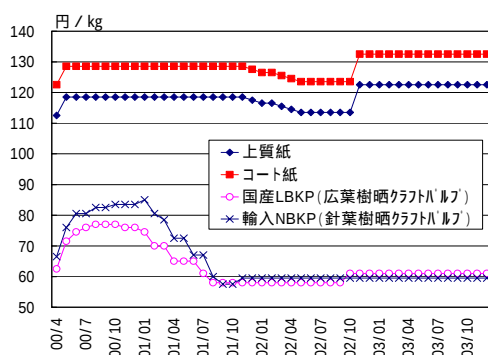
(出所) 日本紙類輸入組合統計資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

2. 市況

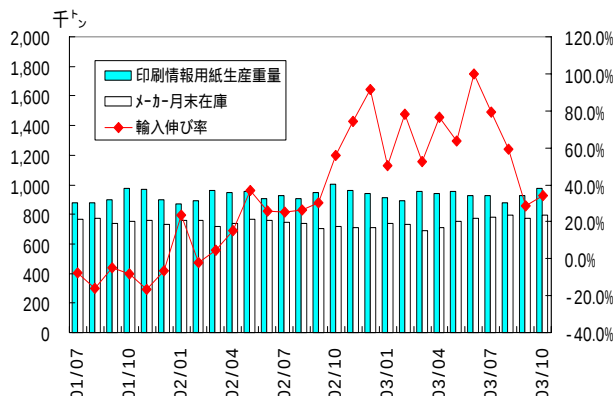
印刷情報用紙価格
は安定化傾向

2002 年度下期における印刷情報用紙の値上げ以来、一部ユーザーに輸入紙に切り替える動きもみられたが、輸入紙の増加の勢いには一服感が出てきている。国内品市況は卸値で弱含む傾向にあったが、国内生産も下げ止まる傾向にあり、原料のパルプ価格も安定していることから、当面価格は維持されることが考えられる。

【図表 4 - 9】 印刷情報用紙市況推移



【図表 4 - 10】 印刷情報用紙生産・輸入推移

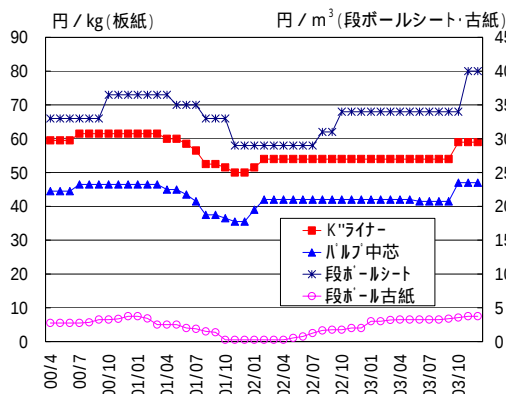


(出所) 日本経済新聞社資料 (【図表 4-9】)、経済産業統計協会資料 (【図表 4-10】) よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

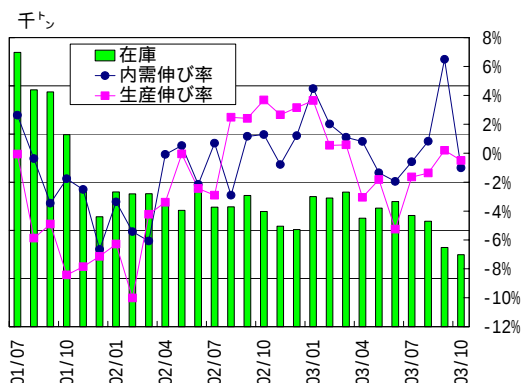
メーカーの減産
強化により板紙
値上げが浸透

主原料の古紙価格が上昇したことに起因し、2003 年 10 月に段ボール原紙が値上げされた。これを受け、中間製品である段ボールシートも 11 月に値上げが浸透し、現在最終製品である段ボール箱への転嫁が進行中である。短期間で値上げ交渉が決着した背景には、値決めの主導権が段ボールメーカーから原紙メーカーに移ったことがある。2001 年末における段ボール原紙価格の値上げ後、段ボール原紙メーカーが減産を強めた結果、適正在庫と言われる 40 万トン を 2 年間で下回ったこともあり、今回の値上げが実現した。原紙メーカーの再編後、段ボール業界の構造変化は着実に進んでいることから、当面価格は安定的に推移すると考えられる。

【図表 4 - 11】 板紙市況推移



【図表 4 - 12】 段ボール原紙需給指標



(出所) 日本経済新聞社資料 (【図表 4-11】)、経済産業統計協会資料 (【図表 4-12】) よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

. 企業業績

2003 年度の企業
収益は微増収増
益の見込み

2003 年度の企業収支は、微増収増益が見込まれる。輸入紙の流入増、市況維持のための減産、古紙や原油など原材料コストの上昇などマイナス要因はあるものの、2002 年度下期の印刷情報用紙を中心とした価格値上げ効果がフルに寄与することや 2003 年度下期の板紙値上げ効果によって売上高は 02 年度比+0.2%を見込む。営業利益は、価格効果に加え、設備の停止・改造や工場再編、人件費削減等による合理化効果によって各社増益し、5 社合計では 02 年度比+28.6%を見込んでいる。特に、2002 年度に唯一 01 年度比 ▲ 62.8%と大幅に減益した三菱製紙が、その一因となった連結子会社の損益が改善したことや新設の北上工場の操業度向上、減価償却費の減少などから、02 年度比+253.4%と大幅増益する見通しである。

2004 年度も増益
傾向は継続

2004 年度は、国内需要の緩やかな回復と輸入紙の数量鈍化により、国内各社の販売数量は 03 年度比増加する見通しである。古紙などの原材料価格は緩やかな増加傾向にあるものの、2003 年度下期の板紙値上げ効果がフルに寄与することから売上高は 03 年度比+0.7%と微増が予想される。また、人員減や工場の操業効率化など一定の合理化効果も引き続き期待できることから、営業利益は 03 年度比+15.8%と増益傾向が続く見込みである。

【図表 4 - 13】 企業業績(連結ベース)

【実額】

	(社数) (単位)	02y (実績)	03fy (見込)	04fy (予想)
売上高	5社 (億円)	31,430	31,501	31,715
営業利益	5社 (億円)	1,555	2,000	2,315

【増減率】

(対前年度比)

	摘要 (単位)	02y (実績)	03fy (見込)	04fy (予想)
売上高	伸び率 (%)	▲ 0.4%	+ 0.2%	+ 0.7%
営業利益	伸び率 (%)	+ 25.3%	+ 28.6%	+ 15.8%

(注) 03 年度・04 年度はみずほコーポレート銀行産業調査部予想

5 社・・・王子製紙、日本ユニパックホールディング、大王製紙、三菱製紙、北越製紙

トピックス ～ 二大メーカーの中国進出

日本ユニパックホールディングの中国進出

2006 年末に中国進出を予定している王子製紙に続き、日本ユニパックホールディンググループの日本製紙が、2005 年 6 月をめどに中国華北に新聞用紙や書籍用紙など紙全般の合弁会社を設立することを発表した。現地の中堅製紙メーカーと共同で新工場を建設し、合弁相手の販売ルートを活用し浸透を狙う。国内の生産体制再構築により操業停止する白老工場(北海道白老町)の抄紙機 3 台を新工場に移設し、年 15 万 t 規模の操業を予定しており、将来的には 60 万 t 規模への拡大を目指している。

国内需要依存型産業から海外マーケットでの競争時代へ

中国は日本を抜いて、既に世界第 2 位の紙・板紙生産国であるが、国民一人当りの年間消費量は、日本の 243 kg に対し 33 kg と 7 分の 1 以下である。製紙業界にとって、今後成熟した日本国内市場での成長が見込みにくい中、需要の伸びが年 7% ほどと高い成長を続けている中国市場は大きな魅力となっている。王子製紙と日本ユニパックホールディングは合併・統合を進め、体力を強化し、国内二強の地位を築いてきた。これまでも板紙分野でのアジア市場進出は行われているが、国内の二大メーカーが紙分野での本格的な中国進出を決めたことにより、紙パルプ産業が国内需要依存型産業から脱却し、海外での市場拡大の契機となることが注目されている。

【図表 4 - 14】 二大メーカー中国進出事業の概要

	王子製紙	日本ユニパックホールディング
場 所	江蘇省南通市(揚子江沿い)	河北省承德市(北京市郊外)
総投資額	2,000 億円	100 億円
資 本 金	3,000 万ドルで上海に持株会社を設立(独資)	60 億円(日本製紙 55%、承德帝賢針紡股分有限公司 45%の合弁形式)
製造製品	上質紙、塗工紙など印刷用紙中心	新聞用紙、書籍用紙など紙全般
生産能力	120 万 t/年(紙パルプ一貫工場)	15 万 t/年(抄紙機 3 台)
進出予定	2006 年末	2005 年 6 月
販売方法	日本紙パルプ商事、国際紙パルプ商事など主要代理店と共同で販売ルートを開拓	合弁相手の販売ルートを活用

(出所)各種資料よりみずほコーポレート銀行産業調査部作成

(素材チーム 吉野 真穂)